

評価センターFD/SD シンポジウムを開催

2014年3月18日に「評価でアピールできる教育実践を考える」をテーマにした評価センターFD/SD シンポジウムを開催しました。大学評価で近年重視される「教育の内部質保証システム」の構築では、しばしばPDCAサイクルとして表現されるように、問題点を発見し、それを改善することが求められます。しかし、問題点にばかり目を向けるのではなく、新規性のある実践や発展性のある実践を発見し、構成員の間で共有することで、教育の質を向上させていくことも重要です。

今回のFD/SD シンポジウムでは、問題解決型学習、学生参加型授業、コミュニケーション能力の強化など、近年の大学教育改革で重要視される事柄に関する教育実践を進めている学内の教員が話題提供をし、その後フロアと意見交換を行いました。

具体的には、教育文化学部教科教育学講座の佐々木雅子教授から「フィールドインターシッップを活用した発見的問題解決学習」、教育文化学部発達教育講座の神居隆教授から「現職教員と共に学ぶ模擬体験による学生参加型授業」、評価センターの辻 高明副センター長から「学生と共にコミュニケーションの場を創造する」というタイトルでそれぞれ話題提供を行い、その後全体討論という流れで進行しました。



登壇者による話題提供の様子



全体討論の様子

全体討論では、今年度本学は認証評価を受審したこともあり、認証評価の自己評価書の内容を踏まえた意見交換、さらに、本学の「優れた点」や「改善を要する点」と関連させた議論も多数見られ、さらに続編を望む声も挙がるなど、本シンポジウムは盛況のうちに終了しました。